

義捐金は「毎日新聞大阪社会事業団」を通じて
社会福祉のために役立てられます。



ユネスコ第1回世界無形遺産 能楽

第8回 みおつくしチャリティー能

令和7年12月28日(日) 会場・大槻能楽堂

主催・公益社団法人 能楽協会 大阪支部

第1部 10時開演(開場9時30分)

観世流能

大蔵流狂言

金剛流舞囃子

観世流能

頼政 武富 康之

鴈磔 善竹 彌五郎

融 北川 米喜

藤戸 上野 雄三

蹠蛇之伝

第2部 15時開演(開場14時30分)

観世流能

大蔵流狂言

観世流舞囃子

喜多流能

百萬 前田 和子

盆山 善竹 隆平

高砂 生一 知哉

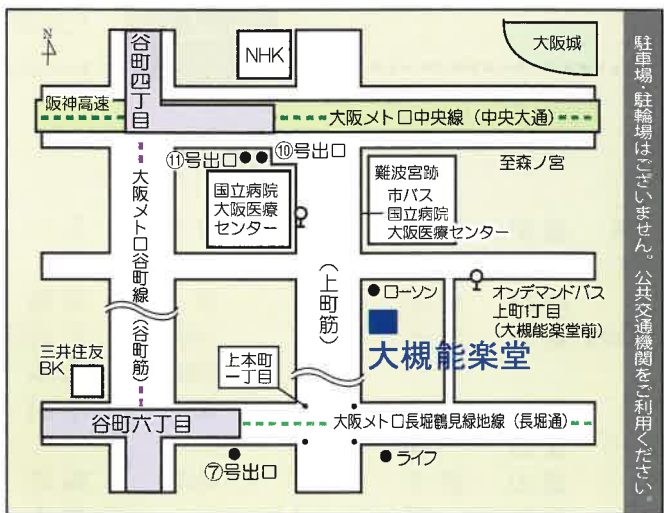
殺生石 白頭 高林 呻二

みおつくしチャリティー能

会場のご案内

大槻能楽堂 大阪市中央区上町A-7

- 大阪メトロ谷町線・中央線「谷町四丁目」駅
⑩号出口徒歩5分(⑪号出口にエレベーターあり)
- 大阪メトロ谷町線・長堀鶴見緑地線「谷町六丁目」駅
⑦号出口徒歩5分(⑦号出口にエレベーターあり)
- 大阪シティバス「国立病院大阪医療センター」下車徒歩1分
※大阪駅前から62系統「住吉車庫前」行き乗車
※あべの橋(天王寺公園前)から62系統「大阪駅前」行き乗車
○オンデマンドバス運行中 乗降場所「上町1丁目(大槻能楽堂前)」



駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用ください。

本公演における写真撮影・録音・携帯電話等にての
撮影・録音は著作権・肖像権に触れますのでご遠慮
いただきますようお願いいたします。

Unauthorized recording or photography of the performances
is prohibited and a violation of copyright. (Thank you for
understanding and we hope you will have a good time.)

ご挨拶

お陰様で、みおつくしチャリティー
能も第8回目を迎えます。

皆様にはチャリティーを主眼におい
た本公演にご理解を賜りまして、心よ
り御礼を申し上げます。

前回ご来場の皆様から頂戴した浄
財・義援金は、【産経新聞厚生文化事
業団】へ80万円をお送りさせて頂き
ました。厚く御礼申し上げます。

本年は【毎日新聞大阪社会事業団】
を通じて、社会福祉のためにお使い頂
けますようにお送りさせていただきます。
年の瀬、お忙しい事と存じますが、ご
理解を賜りまして、何卒ご来場いた
だきたくお願い申し上げます。

公益社団法人 能楽協会 大阪支部員一同

お問い合わせ・お申し込みは

公益社団法人 能楽協会 大阪支部

TEL 06-6761-8055・FAX 06-6761-3399

〒540-0005 大阪市中央区上町A-7 大槻能楽堂内

入場券のご案内

- 入場料【全席自由席】
前売 4,000円
当日 4,500円
学生 2,000円

チケットのご購入について:

大槻能楽堂・出演各能楽師、チケットぴあ(Pコード:537-970)にてご購入
いただけます。大槻能楽堂でご購入の場合、お電話もしくは直接窓口にてお求め
いただけます。お電話でお申し込みの場合は、公演10日前までに窓口にお引き取
りにきていただくか、ご郵送いたします(代金引換郵便にてご郵送いたします。た
だし手数料800円がかかります)。なお、一度お申し込みされた入場券につきまし
ては、キャンセル・変更ができません。あらかじめご了承ください。

ご来場時のお願い

- ご入場時の混雑を避けるため、距離を取って、屋外にてお待ちいただく場合がございます。
 - 会場内での飲食はお控えください。
 - ご退場時、一斉にお席を立たれますと階段・玄関が混雑いたします。ご配慮賜りますよう、お願い申し上げます。
- ※諸般の事情により、配役や番組を変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。

第1部・第2部入れ替え制です。各部毎にチケットが必要になります。
両方ご覧になる方も、一度外に出ていただいてからの入場となります。あらかじめご了承ください。

観世流 仕舞 富士太鼓

宮下 昌子
地謡 立花香寿子
前田飛南子
赤井きよ子
山下あさの

観世流 能 頼政

前シテ 尉 武富 康之
後シテ 源三位頼政
ワキ 旅僧 喜多 雅人
アイ 里人 善竹 隆平

笛 赤井 要佑
小鼓 成田 達志
大鼓 守家 由訓

後見 大槻 文藏
大槻 裕一

地謡 浅井 文義
赤松 禎友
寺澤 幸祐
山本 正人
齊藤 信輔
水田 雄晤
山田 薫彦
鶴 克彦

大蔵流 狂言 鴈磔

シテ 大名 善竹彌五郎
アド 使いの者 小西 玲央
目代 上西 良介
後見 上吉川 徹

— 休憩 15 分 —

観世流 仕舞 和布刈

上野 朝彦

小鍛冶 水田 雄晤
地謡 梅若 基徳
寺澤 幸祐
齊藤 信輔
大槻 裕一

宝生流 仕舞 松風

辰巳 孝弥
地謡 辰巳 二郎
畑 宏隆
伊東 静夫
堀口 雅一

金剛流 舞獅子 融

シテ 融大臣 北川 米喜
笛 森田 啓子
小鼓 清水 皓祐
大鼓 辻 芳昭
太鼓 上田 慎也

地謡 田中 敏文
谷口 雅彦
藤田 章三
山口 冬吾

観世流 能 藤戸

蹉蛇之伝

前シテ 漁師の母 上野 雄三
後シテ 漁師 福王 知登
ワキ 佐々木盛綱 福王 知登
ワキツレ 従者 佐々木 秀
アイ 盛綱の下人 善竹 隆司

笛 野口 亮
小鼓 久田舜一
大鼓 山本 哲也

後見 上野 朝義
上野 雄介

地謡 梅若 猶義
梅若 基徳
梅若 堯之
井戸 和男
林本 朝彦
上野 一郎
梅若 雄一
伊原 昇

附祝言

終了予定 13：45 頃

能 百萬 (ひやくまん)

ところは嵯峨の大念仏で知られた清涼寺。満開の桜の下、人々の賑やかな往来がある春のひと時。そこに子を訪ねる母が狂乱の体で現れます。当時は各寺社の祭日にはたくさんの人が集まり、そこを訪れる人を相手にした芸能者たちも集いました。今でもお祭りの際に猿回しや人形劇があるのと同じです。人を集め、我が子の行方を訪う。さまざまな芸尽くしの末に我が子と再会するという華やかな色彩感に溢れる曲です。

狂言 盆山 (ぼんさん)

盆の上に小さな風景を作りあげる「盆山」という置物。たくさん持っている主人に、分けて欲しいと強請るのですが一つもくれない。ならば盗ってやろうと忍び込むと、家の主に見つかってしまいます。慌てて盆山の蔭に隠れますが、主はこの盗人がよく知る人だと正体を見透して…。

能 殺生石 (せっしょうせき)

数年前に割れたと騒がれた、栃木県那須野の名所「殺生石」にまつわるお話です。この辺りは硫黄が噴出するために害があるとされていますが、その所以は九尾の狐の伝説からです。旅の高僧・玄翁が那須の野原にそびえ立つ巨石に足を止めると、妖艶な美しさを醸し出す女性に声を掛けられます。これこそが九尾の狐の魂。後半は狐の姿となり、退治される様をダイナミックに魅せる型は目が離せません。

第 2 部 15:00 開演

観世流 能 百萬

シテ 狂女百萬 前田 和子
子方 百萬の子 森山 綾音
ワキ 里人 中村 宜成
アイ 釈迦堂門前の者 善竹 隆司

笛 貞光 智宣
小鼓 成田 奏
大鼓 森山 泰幸
太鼓 上田 悟

後見 山本 章弘
山下あさの

地謡 山本 博通
大西 礼久
長山 耕三
今村 哲朗
上野 雄介
山本 麗晃
永田 克壬
田中 誠士

観世流 舞獅子 高砂

シテ 住吉明神 生一 知哉
笛 斉藤 敦
小鼓 久田陽春
大鼓 山本 寿弥
太鼓 中田 一葉

地謡 梅若 堯之
長山 耕三
井戸 良祐
金子 昭汰
稲本 幹汰

金春流 仕舞 経正 キリ

金春 穂高
地謡 佐藤 俊之
金春 飛翔
金春 嘉織
中田 能光

観世流 仕舞 二人静 クセ

シテ 井戸 良祐
ツレ 今村 哲朗

観世流 仕舞 船弁慶

山本 麗晃
地謡 山本 章弘
大西 礼久
山田 薫彦
梅若 雄一郎

観世流 一騎 駒之段

謡 上野 朝義
大鼓 上野 義雄

喜多流 能 殺生石 白頭

前シテ 里女 高林 呻二
後シテ 野干 廣谷 和夫
ワキ 玄翁道人 小西 玲央
アイ 能力

笛 貞光 訓義
小鼓 上田 敦史
大鼓 辻 雅之
太鼓 中田 弘美

後見 高林 白牛口二
佐々木 多門

地謡 狩野 了一
金子 敬一郎
大島 輝久
長田 郷
高林 昌司
松井 俊介

附祝言

終了予定 18：30 頃

第 1 部 10:00 開演

能 頼政 (よりまさ)

保元平治の乱では平家方のために功労のあった源頼政。平家の隆盛期となると、恩賞もないままに不遇の日々を送る事となります。そんな中、平氏政権打倒をにかけて挙兵するのですが、頼政は戦に敗れて平等院にて自害して果てる事となります。歌人としての才能も秀でていた頼政。堅実に生き抜き、自らの終焉を迎えても歌を詠むことを忘れない頼政の風雅心は人々の心に響いたといわれます。最後に臨んで名を遺した老将の矜持を描い

た名曲です。

狂言 鴈磔 (がんつぶて)

隠れもない弓の名手と見せかけ、まだまだ弓が未熟な大名。野に出でて鴈を狙い定めているところ通りすがりの男性の投げた礮で鴈はあっさり仕留められてしまいます。鴈は自分のものだと、互いに獲物を譲らない二人。仲裁に入った男が、もう一度大名に弓を射させるのですが…。

能 藤戸 (ふじと)

平家物語の時代～岡山の児島に浅い砂

地で引き潮の折には歩いて渡る事の出来る「藤戸」の渡し。源平合戦の世にこの浅瀬を渡り戦陣の營れを挙げた佐々木盛綱。この知恵は地元に住む年若い漁師から教えて貰うのですが、他言を恐れて命を奪ってしまいます。前半はその母親が、子を殺された悲しみを。後半は命を奪われた漁師の霊が悪霊の水神となり恨みを晴らそうと姿を現わします。特殊演出が附くことにより、前半は母の深い苦悩を体現し、後半は思いがけず命を取られる事となった漁師の驚愕が強く感じられるようになります。

大蔵流 狂言 盆山

シテ 盗人 善竹 隆平
アド 主人 上吉川 徹
後見 道下 正裕

— 休憩 15 分 —